

## 第2回 自然体験活動指導者養成研修会

悪天候にもかかわらず最後までやり遂げた3日間の炭焼き体験活動を通して、協調性や自尊感情、学習意欲が自然と高まりました。一から作り上げることの大変さと、できたときの喜びの大きさを体感することで、“子どもたちに伝えたい”という気持ちが芽生えました。

### 1. 事業実施までの経緯

子どもたちの豊かな心をはぐくみ、生きる力を身につけさせるために、青少年に対する体験活動の重要性が高まっている。平成19年には、教育再生会議の「社会総がかりで教育再生を一第二次報告書」において「小学校で1週間の集団宿泊体験や自然体験・農林漁業体験の実施」が、また、「経済財政改革の基本方針2007」においても「小学校で1週間の自然体験の実施」が提言された。さらに、平成20年1月の中央教育審議会答申において、「体験活動は、学期中や長期休業期間中に一定期間（例えば1週間（5日間）程度）にわたって行うことにより、一層意義が深まるとともに、高い教育効果が得られる」と示され、平成20年3月に公示された新しい学習指導要領においても「体験活動の充実」が盛り込まれている。これらを受けて文部科学省は、「青少年体験活動総合プラン」で、指導者養成とプログラム開発に取り組んでいる。国立青少年教育振興機構の27施設をはじめとする指導者養成研修実施機関等では、文部科学省が制定した「指導者養成カリキュラム」に基づいた養成研修を実施しており、修了した方々を小学校等に紹介することとしている。今後より一層、学校教育現場に“体験活動の充実”と“長期にわたる体験活動の実践”が求められることから、各小学校で長期自然体験活動を実践する場合に必要な指導者の育成を目的とし、教員・社会教育関係者及び自然体験活動に興味・関心のある方を参加対象として、今回の養成研修会を実施することとなった。

### 2. ねらい

「小学校の1週間の自然体験活動」において、教育効果の高い自然体験・生活体験活動の機会を提供するために、プログラム計画立案の助言、活動時の全体指導や活動の様子の把握と助言、事業評価の助言などを行う指導者を養成する。

- |         |   |
|---------|---|
| 3. 主 催  | 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家   |
| 4. 後 援  | 愛媛県教育委員会・大洲市教育委員会   |
| 5. 期 日  | 平成21年11月21日（土）～23日（月） <2泊3日>  |
| 6. 場 所  | 国立大洲青少年交流の家   |
| 7. 参加人数 | 参加者25名（募集人数20名）   |
| 8. 講 師  | 中田非斗志氏（愛南町立内海中学校長）<br>鶴見 武道氏（愛媛大学農学部教授）<br>大洲消防署 署員<br>国立大洲青少年交流の家 職員 |

## 9. 日 程

	9:00	9:30	10:00		12:00	13:00		18:00	19:00		21:00	22:30
21日(土)	受付	開講式	講義 学校教育における体験活動の意義	昼食	講義・演習 体験活動の指導法 (炭焼きの知識・準備)	夕食	入浴	実習 体験活動における安全管理(救命救急)		情報交換会	就寝	
	6:30	9:00		12:00	13:00		15:00		18:00	19:00	21:00	22:30
22日(日)	起床朝のつどい	準備	講義・演習 プログラムの企画・立案 (炭焼き体験)	昼食	演習 プログラムの企画・立案(炭焼き体験)	講義・実習 体験活動における安全管理(炭焼き体験)	夕食	講義 教育課程と体験活動の関連性	入浴その他	就寝		
	6:30	9:00	12:00		13:00	15:00		15:30				
23日(月)	起床朝のつどい	準備	実習 自然体験活動の技術 (窯出し・野外炊飯の準備)	昼食	実習 自然体験活動の技術 (後片付け・ふりかえり)	閉講式	解散					

## 10. 活動内容

### ◆ 11月21日(土)

【開講式】 9:30

まず初めにオリエンテーションルームにて、開講式が行われた。新山所長の挨拶で、この研修会の意義や目的が伝えられ、参加者の研修会に対するモチベーションも高まった。生活のインフォメーションや1日目のスケジュールを確認し、2泊3日の自然体験指導者養成研修会がスタートした。



【講義】 学校教育における体験活動の意義 10:00

〈講師〉 愛南町立内海中学校長 中田 非斗志 氏

本研修の講師である中田先生より「学校における体験活動の意義」というテーマで講義があった。青少年を取り巻く社会的環境や現状など、現代的課題と青少年問題について詳しく説明をうけた。

また、体験活動については、自身が20年来に渡って実践している夏休み中の長期サバイバルキャンプや、愛南町須之川海岸でのシーカヤックを活用した独自の海学習など、実践的・先進的な事例を聴き、学校における集団宿泊体験活動の大切さが理解できた。



### ◆ 11月21日(土)

【講義・演習】 体験活動の指導法 13:00

〈講師〉 愛媛大学農学部教授 鶴見 武道 氏

午後からは第2グラウンドに場所を移し、「体験活動の指導法」というテーマで、ドラム缶窯での炭焼きの指導法を学んだ。まずは全員の自己紹介でアイスブレイクを行い、リラックスしたところで4グループに分かれ、講師である鶴見先生より、ドラム缶窯の製作方法の講義を受けた。

次に炭材であるナラの木を約80センチに切りそろえた。初めは鋸や鉋の使い方がぎこちなかった女子学生も次第にコツをつかみ、1時間ほどでドラム缶窯いっぱいの炭材が詰め込まれた。斧を使った薪割りにも挑戦し、うまく割れたときには歓声があがっていた。

最後に焚き口の灯油缶をブロックで固定し、後ろに煙突を取り付け、全体を土で覆い固めて、ドラム缶窯が完成した。グループで協力しながら、約3時間かけて立派なドラム缶窯が5つ出来上がった。完成の喜びもつかの間、次の作業である薪集めの指示が出た。第2グラウンド周辺の山から枯れ枝を拾い集め、薪に丁度よい長さに切りそろえていった。同時進行でチェーンソー班が松枯れ材を切り出してきた。参加者のチームワークや手際の良さに感心させられた。約1時間半で明日の燃料となる薪の山が出来上がり、炭焼きの過程でいう「動」の時間が終わった。この過程を通じてグループの協力性や連帯感が一気に高まることも、このプログラムのすばらしさといえる。

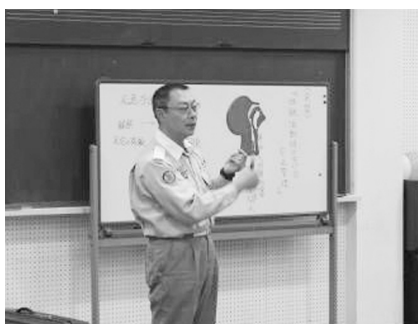


#### ◆11月21日(土)

【講義・演習】体験活動における安全管理 19:00

〈講師〉大洲消防署 奥元隆昭氏

夜は、ミージックルームに場所を移動し、「野外活動時の応急処置」と「心肺蘇生法」について実習した。前半は質疑応答の形式で、参加者からは野外活動時に遭遇するおそれのある危険生物(マムシ・スズメバチ等)への対処法や止血法についての質問が多く出た。それに対する、応急処置の正しい知識を講師である消防署員の奥元氏が分かりやすく解説した。後半はダミー人形を使用し、胸骨圧迫とAEDを組み合わせた心肺蘇生法の手順について、実演を交えながら詳しく説明を受けた。実際の野外活動で活用できる応急処置や救命救急に関する正しい知識・技能を習得することができた。



#### ◆11月22日(日)

【講義・演習】プログラムの企画・立案 一部9:00 二部13:00

【講義・自習】体験活動時における安全管理 15:00

【講義】教育課程と体験活動の関連性 19:00

〈講師〉愛媛大学農学部教授 鶴見武道氏

2日目は炭焼きの過程でいう「静」の時間に入る。第2グラウンドへ移動し、「点火」「着火」「消火」という一連の流れを1日がかかりで体験した。焚き火や煙突から上がる煙と向き合う、ゆったりとした時間の流れの中で、「人と比べる必要はない、自分のペースで…」「教育の世界に失敗はない。全てが学びの材料になる…」といった鶴見先生の温かい教育論を聞くことができた。また、「鑑賞炭」「木酢液の採取方法」「ツイストパンの作り方」といった「静」の時間をつないでいく、参加者を飽



きさせない様々なプログラムを体験できた。

テントで雨をしのぎながら行われた講義では、「炭の材料となるコナラの栽培と利用」「ドラム缶窯を使った炭焼きの流れ」「炭焼き体験における安全管理」「炭の利用法」など多岐にわたる炭に関する知識を学んだ。



19時に最後の班が消火を終え、「ドラム缶の腹出し」の作業をみんなで見届けた。真っ赤に焼けたドラム缶の周りを、土の中の不純物が流れ星のように燃えて滑っていく光景に歓声が揚がった。ドラム缶窯で行う炭焼きの醍醐味と言える瞬間である。

2日目の最後は、場所をオリエンテーションルームに移し、社会科における森林学習の変遷や環境学習につなげる総合的な学習の時間での取組など、学校における森林学習の可能性を示唆していただいた。また、自身のライフワークでもある「えひめ千年の森をつくる会」の活動や山里での暮らしぶりをスライドで紹介していただき、公私に渡る鶴見先生の取組に感銘を受けた参加者も少なくない。



午後からの雨により足下はぬかるみ気温も下がり、雨天時の野外活動に慣れていない参加者にとってはつらくて長い1日と感じたかもしれないが、指導者養成という観点からすると雨天時における活動の手法や配慮事項を体感できるよい機会となった。

#### ◆ 11月23日（月）

【実習】自然体験活動の技術 9:00～15:00

〈講師〉愛媛大学農学部教授 鶴見 武道 氏

国立大洲青少年交流の家 企画指導専門職

3日目、昨日から降り続いていた雨も早朝に上がり晴天。いよいよ最後の作業「炭出し」の時間となった。これまで2日間かけて、グループで苦勞して焼き上げた作品との出会いである。参加者は、期待と不安に胸をふくらませながらドラム缶の開封作業に取りかかった。1班から4班まで順番にドラム缶を開封していくと、それぞれの窯ごとに焼け具合の違うすばらしい炭が出てきた。自分たちで窯を組み上げ、炭材を切りそろえ、薪(たきぎ)を集め、一から焼き上げた炭を手にした参加者からは、歓声が揚がっていた。

体を使って作業した後のお楽しみは「炭火焼き料理」である。3日目の昼食は、野外炊飯の技術指導を兼ねて、「炭火おこし」「羽釜での炊飯」に挑戦した。自分たちの焼き上げた炭を持って野外炊飯場へ移動し、野外炊飯の準備に取りかかった。

下準備ができあがると、交流の家スタッフが野外炊飯の



意義や安全管理、飯ごう・羽釜での炊飯の手順について講義を行い、その後、経験の少ない女子学生を中心に「炭火おこし」や「羽釜での炊飯」を実習した。

自分たちで苦勞して焼き上げた炭、森林に囲まれた野外炊飯場という自然環境、3日間ともに活動してきた仲間、最高の条件のもとで体験できた野外炊飯は、3日間をふりかえるコミュニケーションの場として、本当にすばらしい時間となった。炭火焼き料理の味も最高だった。

食事中の会話や食後に行った感想発表からは「しんどかったけど本当に参加してよかった」「この研修会を通じてすばらしい出会いがあった」「炭焼きをやる自信がついた」など充実感や達成感が伝わってきた。



#### ◆ 11月23日（月）

【閉講式】 15：00

最後にオリエンテーションルームにて、閉講式が行われた。終わりの挨拶では、新山所長が3日間をふりかえり、この研修会の意義や目的、将来の展望を述べた後、受講者の代表者に修了証を手渡した。大阪府や高知県など県内外から延べ25名の参加者を集め、自然の偉大さや炭焼きの醍醐味をじっくりと味わうことができた2泊3日の「平成21年度第2回自然体験指導者養成研修会」は、心地よい疲労感と達成感を残して幕を閉じた。



## 11. 参加者の声

参加者の事後アンケート結果

\* 満足：90.0%    \* やや満足：10.0%    \* やや不満：0.0%    \* 不満：0.0%

- 最初から作るのはとても大変であるが、出来た時の喜びがとても大きく貴重な経験ができた。
- 雨の中のプログラムとなったけれど、みなさんの気配りがとても素晴らしかったです。講師の方の考え方や、視点のあり方が体験をする学習としてとても参考になりました。
- 実習といっても、いつもせかされるときが多いので「ゆっくりでいいんだよ」と言ってもらえて、楽しくゆったりと活動することができました。
- 初めての参加でしたが、とても良い研修会だったと思います。自分たちで作った炭で食べた焼き肉は最高においしかったです。
- 知識だけでは分からないことや、自然の中だからこそ楽しめることなど、とにかく体験してみることが大切です。
- 炭焼きを指導するにあたって、これ以上研修する必要はないと思います。後は、指導者が何度も経験する事だと感じました。
- 実際にいろいろな体験をして自然に触れることで、自然の大切さを感じることができました。自然に実際に触れていくことが大切だと思います。



- 一人一人の気持ちや気付きをととても大切にしていることが伝わった。自分もそうできるようにしたい。
- 深い内容なので同じ内容だとしてももう一度受講したい。素晴らしく良い研修でした。

## 12. 成 果

講師を3人に絞り、ゆったりとした流れの中で3日間の講義や実習がスムーズにつながるよう配慮したこと、途中参加・帰宅する参加者が多く年齢層も幅広かったため、3日間を通して活動に必要な人数が保てるよう、年齢がバランスよく分かれるようグルーピングしたこと、2日目の天気が怪しかったため、周囲を覆ったテントを二張り用意し備えたこと、野外活動の最初に自己紹介を兼ねたアイスブレイクを行い参加者の心をほぐしたこと、研修室や休憩テントには湯茶コーナーや参考図書コーナーを設け、休憩時間にも参加者同士がふれあえる学びの場を提供したこと、野外では寒さ対策として焚き火を行い、鑑賞炭や焼き芋、パンづくりの熱源に、また休憩時間の心温まるつどいの場となるようにしたことなどが、悪天候の中の野外活動でも、最後まで1人の脱落者を出さずに活動できた要因と言える。地元の森林組合に炭材の切り出しを手配するなど、当所の施設・設備や身近な自然環境を最大限に活用し、上記のような手法を取り入れることで、炭焼きのプログラムを実践する際、効果的な指導につながることを確認できたことが大きな成果と言える。活動の最後に行ったふりかえりでの感想発表や参加者アンケートからも充実感や達成感がうかがえた。

広報活動の工夫による参加者の確保では、松山市のPTA連合会へ出向きメール配信を依頼したり、当施設の外部研修指導員・ボランティアとして登録している方、前回までの全体・補助指導者登録者に、事業への参加や知人への声かけをお願いしたりしたことが効果的であった。

## 13. 課 題

当所ホームページへの掲載やポスター掲示、学校関係（特活・総合主任、PTA役員、おやじの会等）やアウトドア・ボランティアサークルへの声かけ等、利用団体へ積極的に広報したが、3日間通して受講できる参加者（全体指導者）が、思うように集まらなかった。期日と簡単な活動内容だけでも年度当初（4月中）に広報できると学校や社会教育関係研修会に組み込んでもらえる可能性がある。魅力ある事業プログラムの開発、広報活動や開催要項・チラシを工夫することで積極的にPRを行う必要がある。

炭焼きというなじみの少ないプログラムに挑戦していく場合、どういう作業過程がどのくらいの時間で、どんな様子で進んでいくのかというイメージが浮かびにくく、その分、不安感や疲労感が大きい。導入の段階で全体の活動を見通せるスライドショーや実践した学校のビデオ映像などがあるとよかった。アンケートの自由記述などから、「参加者への様々な活動の提供を支える為のスキルフォローアップが大切である。」「自分たちがもっと指導者の立場として意識を高めることが必要。若い人達が学びやすいプログラム、興味を持ちやすいプログラムも必要になると思う。また、参加者同士の連帯感が生まれるようにアイスブレイクなどがもっとあればよい。」「今回のことだけでは、指導するには不十分（自信がもてない）だったので、もう一度同じ内容について（知識だけでも）研修を行う。」といった意見もあげられていた。今後は企画・実践の実習などのフォローアップ研修を行い、実践経験の少ない指導者が自信を得られるような研修システムを構築する必要がある。来年度以降、さらに改善し継続して取り組んでいきたい研修プログラムである。